

営農情報 (大豆)

令和5年6月6日

(大豆営農情報 6月号)

J A福岡大城、南筑後・久留米普及指導センター

大豆の収量向上には「適期播種」が重要です。7月5～15日に播種ができるよう早めの準備を行ってください。

耕起後に降雨にあうと、しばらくの間トラクタ作業ができなくなります。適期播種のためには、事前の耕起は行わず、荒起こしと播種を「組み作業」で行うか、「部分浅耕一工程播種」を行いましょう。

1 ほ場の準備

○雑草対策:播種前雑草対策として、ラウンドアップマックスロードを散布します。

○土づくり

- 大豆の適正pHは6.0～6.5です。
※投入量の目安:炭酸苦土石灰、ミネラルG(160～200kg/10a)
- 地力低下の防止には、有機物の投入が必要です。麦わらは全量すき込みましょう。

○排水対策

- 麦作時の周囲溝を排水溝に繋ぐなど、表面排水を徹底しましょう。
- 麦作後は土壌の亀裂により地下透水性が十分高いため、大豆播種前の弾丸暗渠やプラウ施工等は不要です(過度の排水対策は夏季の乾燥害を助長します)。

○施肥:基肥としてPK化成40号(30kg/10a)を施用します。

2 播種

○種子消毒

薬剤名	処理量	備考	
クルーザーMAXX	種子10kgに80ml	茎疫病 [*] 、ハト害、紫斑病	いずれか1剤を使用
キヒゲンR-2フロアブル	種子10kgに200ml	ハト害、紫斑病	
キヒゲン	種子10kgに100g	ハト害、紫斑病	

※茎疫病は、水を介して蔓延する糸状菌(かび)の一種によって起こり、大雨後の出芽不良の原因になります。

感染した大豆は、地際部がくびれ倒伏したり、葉の黄化や萎凋、立枯れ症状になります。

排水不良田や梅雨の合間の播種には、クルーザーMAXXをお勧めします。

○播種時期と播種量

播種時期	7月5～20日（適期播き）	7月21日～（遅播き）
播種量	3～4kg/10a	6～8kg/10a

○播種深度

播種の深さの目安は3cmとし、土壌の水分状態に応じて調整し、土が乾燥している場合はやや深め（5cm程度）とします。

3 雑草防除（令和5年5月の登録情報に基づいて作成）

使用時期	薬剤名		10a当たり 使用量	10a当たり 希釈水量	備考
耕起前	ラウンドアップ マックスロード		200～500ml	通常散布 50～100L	100倍液が 効果が高い
				少量散布 5～50L	少量散布用 ノズルを使用
播種後 ～出芽前まで	粒剤	ラクサー粒剤	4～8kg	—	いずれか 一剤を 使用
	乳剤	ラクサー乳剤	400～800ml	100L	
		プロールプラス乳剤 ※イネ科雑草多発ほ場	400～600ml	100L	
出芽直前～ 大豆3葉期まで	パワーガイザー液剤		200～300ml	100L	広葉雑草対策

※イヌビユ、ホソアオゲイトウ、ホオズキ類に対しては、ラクサー乳剤かプロールプラス乳剤に**フルミオWDG**を5～10g/10a混ぜて使用します。使用後は、専用の洗浄剤で散布器のホースやノズルをよく洗浄します。

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！